**事前課題No.3**

氏名　　　　　　　　　　　　｡

・テキスト「第5　リハビリテーションの過程」を読み、リハ職が実施する評価及びアプローチについて指定のワークシートにまとめる。

教科書69ページ　１）障害別評価（69ページ）より「機能障害」「能力障害」「環境因子」に関する評価項目を抜き出して記載してください。

**機能障害に対する評価項目**

|  |  |
| --- | --- |
| 筋力検査 | 関節可動域検査 |
| 知覚検査 | 協調性検査 |
| 運動発達検査 | 言語機能検査 |
| 高次脳機能検査 | 排泄機能検査 |
| 摂食・嚥下機能検査 |  |

**能力障害に対する評価**

|  |
| --- |
| 日常生活活動（ADL：Activities of Faily Living） |
| 家事や買い物などの手段的ADL（IADL：Instrumental ADL） |
| 歩行機能 | コミュニケーション |

**環境因子に対する評価**

|  |  |
| --- | --- |
| 家族構成 | 経済面 |
| 家屋環境 | 職場環境 |

教科書（69ページから70ページ）２）リハビリテーションの時期別評価　より、

「急性期」「回復期」「維持期（生活期）」それぞれの時期における評価について抜き出して記載してください。

**急性期**

|  |
| --- |
| （急性期では）評価した内容が日々変化していくために、簡便で、またその変化の過程が分かりやすいことがポイントである。 |

**回復期**

|  |
| --- |
| （回復期における評価では、）身体的評価、精神的評価に加え、環境の評価が重要となってくる。回復期の評価会議での目標設定の変更などは、環境が原因のことが多い。 |

**維持期（生活期）**

|  |
| --- |
| 維持期（生活期）における評価では、身体的評価のウエイトは下がり、回復期以上に環境の評価が重要となり、目標も生活の質（QOL：Quality of Life）の向上となる。 |

教科書（73ページから74ページ）を参考に以下の内容を埋めなさい。

４．評価の内容

リハビリテーションにおける運動機能の三大評価を抜き出してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 関節可動域検査 | 筋力検査 | ADL検査 |

ADL（日常生活活動）検査の順序を抜きだしてください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 訓練室や病室での評価 | 実際に行っている評価 | ADLのゴール |
| できるADL | しているADL | するADL |

障害レベル別の精神的評価法について、74ページより抜きだしてください。

|  |  |
| --- | --- |
| 機能障害 | 知能検査、高次脳検査、 |
| 能力障害 | うつ、不安、意欲低下など |
| 環境面 | 家族の障害受容、社会的支援、経済面など |

教科書（75ページから76ページ）を参考に　５．ゴール（目標）設定　について括弧を埋めなさい。

ゴール設定では患者・障害者の（　身体的　）・（　精神的　）評価から問題点を抽出し、これに（　環境　）因子と（　個人　）因子の評価も含めて検討する。ゴールは、原疾患、障害の種類によって異なるが、年齢、生活歴、家族構成、経済面などの（　環境　）因子の占めるウエイトも大きい。

教科書（76ページ）より　６．プログラムの作成　の原則をカギ括弧に埋めなさい。

プログラム作成は「　協働を原則としての役割分担　　」が原則である。

教科書（76ページから78ページ）を読んで　７．リハビリテーション過程とクリニカルパス　について、括弧を埋めてください。

　医療の（　標準化　）・（　効率化　）が目的であるクリニカルパスは、日本では病院の（　機能分化　）や入院期間の（　短縮化　）を背景に急速に広まっている。

　（　共通の目標　）ゴールを設定し、それを短期間に（　達成　）するというクリニカルパスの目的は、リハビリテーション過程そのものといっても過言ではない。